

頑張る企業を応援します！

中小企業応援団

愛知県信用保証協会 × 中部経済新聞



掲載日 2022年7月19日

株式会社エムエス製作所

自動車用ゴム金型製造のエムエス製作所。自動車分野で培ったノウハウを生かし、最近ではゴルフクラブから馬具、医療用器具と守備範囲を広げている。技術の深化と幅広い分野に業務展開する代表取締役社長の迫田邦裕氏に経営理念や展望を聞いた。

Company Data

社名：株式会社エムエス製作所

代表者：迫田 邦裕

住所：清須市春日立作 54-2

電話：052-409-5333

URL：<https://www.msgroup.co.jp/>

紹介金融機関：十六銀行



量産の成否を分ける金型、ゴム金型にこだわり創業

当社は豊田合成株式会社の前身である名古屋ゴム株式会社の社員だった祖父の迫田満志（さこだ・みつし）が独立し、名前の頭文字「MS」を社名に入れました。「量産の成否を分けるのは金型」と確信し、ゴム金型メーカーとして1971年に創業しました。自動車のドア周りや窓枠にあるゴム製品「ウェザーstriップ」の金型設計・製作を手がけ、ウェザーstriップの金型技術では業界トップクラスを誇っております。

父の「改革」そして働きやすい職場へ

父の幸博が97年に2代目社長に就くと、樹脂金型、製品設計、治工具の開発などの多角化を進め、会社を大きく変革しました。2008年にリーマンショックにより事業縮小を余儀なくされましたが、その後海外5か国に進出するなど果敢な挑戦を続け会社の成長を目指しました。

私も含め、歴代の経営者は皆技術者ではありませんでしたが、だからこそ会社で働く技術者を大切に、働きやすい職場にするため、マネージャーとしての経営に専念してきました。そのおかげで、「現代の名工」や「あいちの名工」が活躍する会社になりました。

金型の技術を活用し新規事業に進出

当社は金型メーカーとしてニッチな分野で成長してきました。ゴム金型は、ゴムの中にガスが溜まりやすく粘着するため、形を整えにくく温度管理も難しいことから、参入をためらう分野です。当社には創業以来、半世紀に及ぶ技術の蓄積があり、1/100mmの精度で仕上げることが強みです。

しかし、金型は顧客の所有物であるため、当社の実績として公開することができず、その技術力のアピールが難しいという課題がありました。それでは若い人が金型業界に関心を持たないと思い、金型の技術を生かした自社商品を展開しようと考えました。

そこで当社の技術を結集させコストよりも品質を重視したゴルフクラブ「MUQU（ムク）」を2020年に開発しました。このMUQUをゴルフの展示会に出品した際お客さまからのご紹介から騎手の武豊さんが興味を持っていただき、その後当社の工場を視察してくれました。



当社のものでつくりに対する姿勢を見ていただいた武さんから「自分の足の大きさや乗せ方にフィットした、専用の鞍（あぶみ）（馬に乗る際に足を掛ける部分）を作ってもらえませんか」と相談を頂きました。手がけたことのないジャンルの製品ですが、武さんからの要望をもとに試作を重ね納品したところ非常に満足いただき、今でもご使用いただいております。

またそれを縁に、ほかの騎手からも注文をいただくことになりました。世の中になくものを生み出すという品質重視の結果、コストは高額になってしまったため、MUQUそのものがビジネスとしてうまくいったわけではありませんが、「機会」としては最高の結果になったと考えています。

多角化と高付加価値化を進める

最近では、自動車部品の厳格な精度で培った技術を生かし、コロナ禍で拡大を続けるアウトドア市場を取り込むため、キャンプ用のまき割り専用くさび「先鋒（せんぽう）」やハンマー「手槌（てづち）」を製品開発し、販売開始する予定です。



また医師のキャリアも生かし、医療分野の開発にも取り組んでいます。新型コロナウイルス感染予防ツールのキーボードカバー「タッチラップ」や、医療従事者の被爆保護と作業性維持を両立させたカテーテル治療向け放射線防具板「FORUshield (フォルシールド)」は、医療現場の要請を受けて製品化しました。

当社は祖父が創業し、父は多角化や海外展開を推し進めました。私も 2 人の旺盛なチャレンジ精神に敬意を払い、独自に新しい道を切り開いていきたいと思っています。

病気も経営も前向きな気持ちが肝心

私が大切にしている言葉は「病は気から」です。私は大分県で医師としても勤務していますが、医師を続けながら実家を継ぐと決意し、現在は当社と大分の病院を行き来する「二刀流」の日々を送っています。その中で、医師として患者さんと接していると、「病は気から」であることをとても実感します。同じ病気にかかっている人でも、気分が暗くなっている人は、明るく前向きに捉えている人に比べて、さらに体調を崩してしまうことがあります。これは経営にも当てはまると思っており、昨今のコロナ禍やウクライナ情勢など先行きが暗いと考えれば、経営もマイナス思考になりがちです。病気も経営も一緒に、明るく前向きに進む先に未来があると考えています。